

## 花鳥風月 名画で見る日本の四季展

### 秋冬編 ー光琳・歌麿・春草などー

岡田美術館（箱根・小湧谷） 2022.07.16～12.18

「岡田美術館」は、2013年10月に実業家の岡田和生が収集した東洋・日本美術コレクションを展示する目的で設立された館で、古代から現代にいたる日本の近世、近代の日本画に、中国、韓国の陶磁器を中心に所蔵している。

江戸時代の画家「伊藤若冲」(1716～1800)は、齢40(当時40歳は初老であった)には、はやばやと隠居して作画三昧の日々を送っていたとされている。

#### 《孔雀鳳凰図》 絹本着色 2幅 江戸時代(18世紀中頃)



2つの絵は、セットで伝わった掛軸で、色彩衣豊かな孔雀がとても細かく描かれている。しかし、なんと85年間も所在が不明であったことが大きな話題となり、発見されてからは、当美術館が所蔵をして2016年に一般公開がされている。

左側の「鳥」は、古代中国で生み出された想像上の神聖な鳥「鳳凰」で、その姿は、麒麟、竜、鹿、へび、魚、亀、キジなどの体の特徴を組み合わせたもので、羽根の色数が多くて頭上を流れるように純白の羽根がとても美しい。

右側は、大きな羽根がエレガントな「孔雀」で、毒へびを食べることから魔除けの力があるとされ、子孫繁栄の象徴ともされてきた「鳥」である。

孔雀の羽根も牡丹の花も、繊細な線描で丁寧な描きこまれていて、孔雀の羽根の様子は、金泥を地に緑青群青を重ねて描かれていて純白の羽根が美しい。

